

28 鎌倉時代（後醍醐天皇登場～建武の新政）

し、1333年北条氏滅亡（得宗は高時、執権は守時。約150年の鎌倉幕府の支配が終わる。

14代執権者 北条高時（政治の実権は内管領で高時の寵臣 長崎高資 が掌握）

1317 → 文保の和談 が行なわれる。

幕府の仲裁で皇室内部における 持明院 統（祖＝後深草天皇）と 大覚寺 統（祖＝龜山天皇）の 両統迭立 が決められていたが、それが紛糾したため今後は話し合いで決めることとし、幕府は関与しないこととなった。

1318 豊 後醍醐天皇 即位（大覚寺 統）

父後宇多天皇の院政を廃止し、記録所を再興して天皇親政＝建武の新政 を開始。不撓不屈こそ後醍醐天皇の真骨頂。これほどの執念で幕府打倒を成し遂げた者はいない。



後醍醐天皇の倒幕計画 Part1

1324 × 正中 の変 勃発。→六波羅探題が朝廷の倒幕計画を知り後醍醐天皇側近の 日野資朝 ・日野俊基 を天皇の代わりに逮捕した事件。天皇は幕府に釈明し事なきをえる。

1325 幕府、元に貿易船 建長寺船（建長寺再建費調達のため）派遣

1331 × 元弘 の変 勃発 倒幕を目論む後醍醐、再度挙兵に失敗

→ 隠岐 に流される

悪党、楠木正成登場！×石や“うんこ”投げ奮戦！

後醍醐に呼応し河内の悪党→ 楠木正成 挙兵。

この頃、各地で幕府や荘園領主に反抗する武士団→ 悪党 が活躍する。

幕府、後醍醐天皇に対抗すべく 光厳 天皇（持明院 統）擁立

1333 後醍醐天皇、伯耆国豪族名和長年の協力を得て隠岐から出雲に脱出 →これぞ不撓不屈の真骨頂！



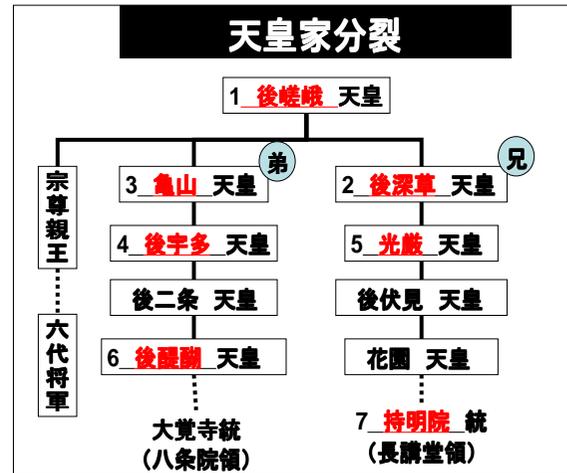
楠木正成 石田

兄島高徳の話

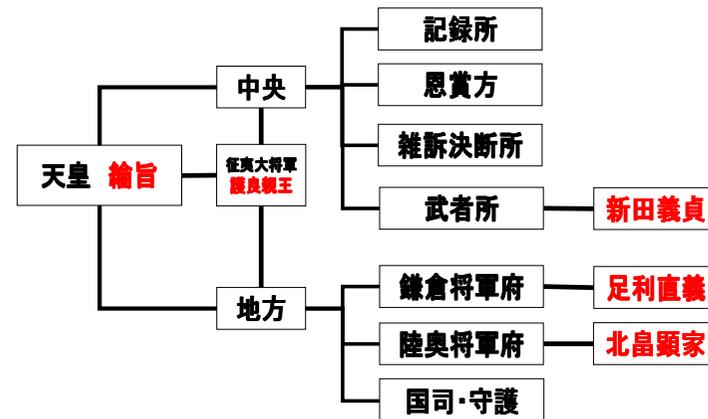
「天勾踐を空しうする莫れ 時に范蠡なきにしも非ず」孤島から帰ってきた旧軍人、横井庄一さんが口にしてにわかになつた文句である。隠岐に流された後醍醐帝を励ますために忍んで来た高徳が、警護の目を盗んで、庭の桜の幹を削って書き付けた言葉だと言う。いわんとするところは、呉と戦って敗れた越王に勾踐が、忠臣范蠡（はんらい）の助けを得て、長い隠忍のすえについて呉に復讐をとげた物語を踏まえている。『室町記』 山崎正和著 講談社文庫

× 下野 国の鎌倉幕府御家人 足利高氏、幕府に背き 六波羅探題 攻略

× 上野 国の鎌倉幕府御家人 新田義貞、幕府に背き 鎌倉 を攻略、北条高時自害



建武政府の組織



豊後醍醐天皇の親政

（＝建武の新政）

天皇、京都へ戻り 記録所 を復活させ 雑訴決断所 ・ 武者所 を設置する。

持明院統の光厳天皇は退位させられる。新政では 綸旨 万能主義を採用し、従来の知行年記法（貞永式目8条に定められたもので、20年継続して領有した土地は所有権を主張できること）を無視後醍醐天皇したため混乱が起こる。

★綸旨＝天皇の意思を伝達する奉書...

1334 → 護良 親王、鎌倉将軍府足利直義のもとへ配流される。

建武政権を風刺した 二条河原の落書が貼られる

三史料研究

『口遊去年八月 二条河原落書 云々 元年か（＝1334年？）』

此頃都二ハヤル物、夜討強盗 謀 綸旨、召人早馬虚騒動、生頸還俗自由出家、俄大名迷

武器としての日本史

者、安堵恩賞^{かたいくま}虚軍、本領ハナルル訴訟人、文書入レタル細葛^{ほそつづら}、追従讒人禪律僧、下克上スル成出物、器用ノ堪否沙汰モナク、モルト人ナキ 決断所...四夷ヲシツメシ鎌倉ノ、右大将家ノ掟ヨリ、只品有シ武士モミナ、ナメンタラニソ今ハナル。...』

『 建武年間記 』

問1. 史料の落書(らくしょ)を一般に何というか。二条河原落書

問2. 「決断所」とは何か。雑訴決断所

1355 × 中先代の乱 勃発 →中先代とは？

北条高時の遺児北条時行が鎌倉幕府再興を期し挙兵する。鎌倉將軍府を攻め、足利直義の軍を破るのだ。反撃する直義、幽閉中の護良親王を殺害する。尊氏、直義の救援を名目に鎌倉入り。時行軍を鎮定し、その後帰京せず、建武政府に反旗を翻す。尊氏は後醍醐に征夷大將軍就任を望むが後醍醐は許さなかった。

1336.1 尊氏入京するも 新田義貞・北畠顯家軍に敗れ九州へ逃走。

1336.5 尊氏、× 楠木正成を湊川の戦いで破る。最終的な勝利。

ここで、建武の新政(建武の中興政府)崩壊。

1336.8 尊氏、持明院統の光明天皇(光厳天皇の弟)を擁立して入京。これを北朝とする。ここに南北朝の動乱始まる。

1336.11 尊氏、建武式目十七条制定 新政権の基本方針を示す

三史料研究

『鎌倉元の如く柳營(=幕府の所在地)たるべきか、他所たるべきや否やの事...居所の荒廢は政道の善悪によるべし...但し諸人若し遷移せんと欲せば、衆人の情に随う可きか。...以上十七箇条、大概斯くの如し。

...遠くは延喜・天曆兩聖の徳化を訪ね(=延喜天曆の徳のある政治を思い)、近くは懿時・泰時父子の行状(=善政)を以て近代の師となす。殊に万人帰仰の政道を施されば、四海安全の基たるべき乎。

建武三年十一月七日 真恵 是円(=中原是円)『 建武式目 』

問1. 「建武式目」は西暦何年に発せられたか。 1336年

問2. 「柳營」とは何か。 幕府の所在地

1336.12 後醍醐天皇、大和国吉野へ遷り、これを南朝とする。

→後醍醐は偽物の三種の神器を光明天皇に渡し、吉野の山奥に逃げるのだ。

1338 足利尊氏、光明天皇より征夷大將軍に任命される。

三論述研究 建武の新政の特色 東大 1991 第2問

次の文章を読んで、下記の設問に答えよ。

1333(元弘3)年、後醍醐天皇は鎌倉幕府を倒して一身に権力を集中し、「天下一統」を実現した。平安時代以来、貴族社会では、「先例」に従うことが正しい政治のありかただとする考えが支配的であった。天皇は、「今の先例も昔は新儀だった。私の行う新儀は未来には

Pain is inevitable Suffering is optional

先例となるだろう」(『梅松論』という言葉に示されるような意気込みで、つぎつぎに目新しい政治改革を打ち出した。この急進的な改革に対しては、領地の所有に不安を抱いた武士だけでなく、貴族のなかからも批判があった。政権の中核にいた北畠親房は、「一統の世」の実現をふり返って、「今こそ積年の弊を一掃する好機だったのに、それどころか、本所の領地でさえもことごとく勲功のあった者に与えられ、由緒ある家がほとんど名ばかりになってしまった例もある。こうして勲功を鼻にかけた者たちが天皇の政治を墮落させた結果、皇威もますます軽くなるかと思えた」(『神皇正統記』)と記している。

設問

(A) 後醍醐天皇がこの政治改革でめざしたものは何か。3行以内で述べよ。

(B) 北畠親房は、天皇の政治に対して、どのような立場からどのような批判をもっていたか。3行以内で述べよ。

(駿台予備校解答例)

A

後醍醐天皇は中国の宋の政治運営に影響をうけ、院政や幕府を否定すると共に、公家政治の慣習を無視して摂政・関白を廃止し、絶大な権力をもつ天皇の下に公武を統一した新たな政治をめざした。

B

北畠親房は、公家政治の慣習を重視する立場から、勲功を優先した恩賞給付や家柄を無視した人材登用が公家中心の身分秩序と政治を混乱させ、かえって天皇の権威低下を招いたと批判している。

三南北朝正閏論と明治維新 教養としての日本史

江戸時代末→南北朝どちらが正しいのか?これが正閏論

事実北朝が勝ち、三種の神器も北朝に渡し、ずっと北朝から天皇が続く。

異議あり!徳川光圀の大日本史と頼山陽の日本外史だ。正統な南朝に対する閏統な北朝。閏は余分なものの意。天皇以外の北朝に付き従っていた人々を徹底批判。足利尊氏が元凶。何故なら正しい天皇にお仕えせず余分な天皇に付き従ったから。しかも後醍醐天皇の建武の中興を支える役割を果たしながら裏切ったのだ。頼山陽の歴史認識を“今”の問題としてとらえる人々が登場してきた。尊王攘夷運動である。朱子学の大義名分論の一つで、王を尊んで野蛮人・異民族(夷)を追い払う(攘夷)という意味です。中国の南北朝時代、南朝は漢民族の王朝で、北朝は異民族の王朝でした。ペリーやハリスがやってきたことを攘夷として、尊王(天皇)を叫んで追い払う幕末の時代がやってくる。天皇を担ぎ出すかたちで武家政権を倒すという歴史認識ですね。かつて南朝と北朝に二人の天皇が並び立ってしまった。なぜかという武家の棟梁である足利尊氏という裏切り者が出たから。南朝がめざしていたのは公家一統の世の中であって、公家一統が日本の国体である。こうした歴史認識だ。国体とは万世一系の天皇をいただく、王朝交替の存在しない国柄なのだ。